

第3回 大阪大学・チュラーロンコーン大学 日本文学国際研究交流集会 - 知がむすぶ絆 -

日時:2012年6月2日(土) 午後2時~6時

会場:大阪大学豊中キャンパス

全学教育総合棟 I (1階)・開放型セミナー室

本会は、多くの国の若手日本文学研究者が集い、発表をし、議論を行うものです。
参加は自由です。多くの方のご来場をお待ちしております。

開会の辞 加藤 洋介(大阪大学大学院教授)

〈第1ブロック〉

金 起台(Kim Kitae)『『枕草子』の日記回想的章段に表れた執筆方法の変化 -「宮にはじめてまゐりたるころ(一七七段)」、「大進生昌が家に(六段)」』(大阪大学大学院生)

ウィモンワン・スートーンヤンキット(Vimolwan Soonthornyanakit)『『堤中納言物語』の終わり方 -多様な方法』(チュラーロンコーン大学大学院生)

パティユット・タンワーン(Patiyoot Thunwanont)「謡曲『砧』『綾鼓』『恋重荷』におけるシテ -生きたシテを用いる意味」(チュラーロンコーン大学大学院生)

ディスカッサント 丹下 暖子(Tange Atsuko)(大阪大学特任研究員)
松本 大(Matsumoto Oki)(大阪大学大学院生・日本学術振興会特別研究員)
康 盛国(Kang Sungkook)(大阪大学大学院生)

〈第2ブロック〉

金 侖姫(Kim Yoonhee)「樋口一葉『暁月夜』論」(大阪大学大学院生)

トマコーン・スイキットケン(Tomakorn Srikiikul)「志賀直哉作品における夫婦関係 -『范の犯罪』の多層的罪意識の構造と背景」(チュラーロンコーン大学大学院生)

曾 嶸(Zeng Rong)「堀田善衛文学における茅盾の影響 -『歴史』と『子夜』を中心に」(大阪大学大学院生)

プンヤダー・ダーシー(Punyada Dasri)「小川洋子『博士の愛した数式』における「博士」の役割と関係性」(チュラーロンコーン大学大学院生)

ディスカッサント 西尾 元伸(Nishio Motonobu)(摂南大学非常勤講師)
モハマド・モインウッディン(Md Moinuddin)(大阪大学大学院生)
張 麗静(Zhang LiJing)(大阪大学大学院生)
田 泉(Tian Quan)(大阪大学大学院生)

講評 出原 隆俊(Izuhara Takatoshi)(大阪大学大学院教授)
橋本 順光(Hashimoto Yorimitsu)(大阪大学大学院准教授)
ナムティップ・メータセート(Namthip Methasate)(チュラーロンコーン大学講師)
岩井 茂樹(Iwai Shigeki)(チュラーロンコーン大学講師)
勢田 道生(Seta Michio)(大阪大学大学院助教)

閉会の辞 アッタヤ・スワンラダー(Attaya Suwanrada)(チュラーロンコーン大学助教授)

総合司会 莊 千慧(Chuang Chien-Hui)(大阪大学大学院生)
ルーンピロム・カナパット(Ruenpirom Kanapat)(大阪大学大学院生)

コーディネーター 合山 林太郎(Goyama Rintaro)(大阪大学大学院講師)

主催:大阪大学日本文学研究室・チュラーロンコーン大学文学部東洋言語学科日本語講座
共催:大阪大学大学院文学研究科・国際交流基金・タイ国トヨタ自動車株式会社・大阪大学古代中世文学研究会
連絡先:合山林太郎研究室(内線5680 e-mail:goyama★let.osaka-u.ac.jp ★=@)